小いなり屋本編
京山作
國貞画
岩戸板
へ13
2378
37

遠1
2378
37

山東庵京山作　岩戸板

小いか判ゑ場

おちよ半ゑ表　梅樹春道行

玉波亭國貞画　前編

壽

豊年乃雲ゝとのきれ梯木み

ちまだめくあふ袴し　裏ゝ隠れ

京橋　九十軒　張利重

京都帝国大学

扶桑略記の中に弟子の名を
脱して出家（喜べ）喜びできる岡崎作らんと跡を垂れ
捨小舟女板者の編選千かる孫岡もあ海人の聚落
ゆりや寄るべ思かゆ（すゑと葉れいるもかゆくりてあ色
乃作ハ者ゝ出家ゝ出家（上やきしふ）とみ年のあ
ゑ怪奇ゝ奇ゝ出家ゝ跡ゝ作ハいるゝと催促ゝ
のひきゝ名ゝ攻者の中北郎の愛ゝ名
利のゝハあゝ孫ゝ一ゝんゝ孫ゝ大ゝと汗ハ孫ゝ孫ゝ
蘭亂の霧ゝさゝ似ゝ畠塩ゝ草作者と嘲ゝ
大人ゝ攻ゝあゝ伝ゝ一ゝ孫ゝ孫ゝ
八けん伝ゝ好評ゝ草作者ゝ幸ゝ基

文政五年午秋脱稿
は六年未春完

山東庵京山

山東

○鎌倉星の井家の浪人
勝間源吾娘お花
後よかまくら八幡前の
藝者小稲
○小稲
父
勝間源吾
○かまくら扇ヶ谷の町人
福徳屋
半兵衛

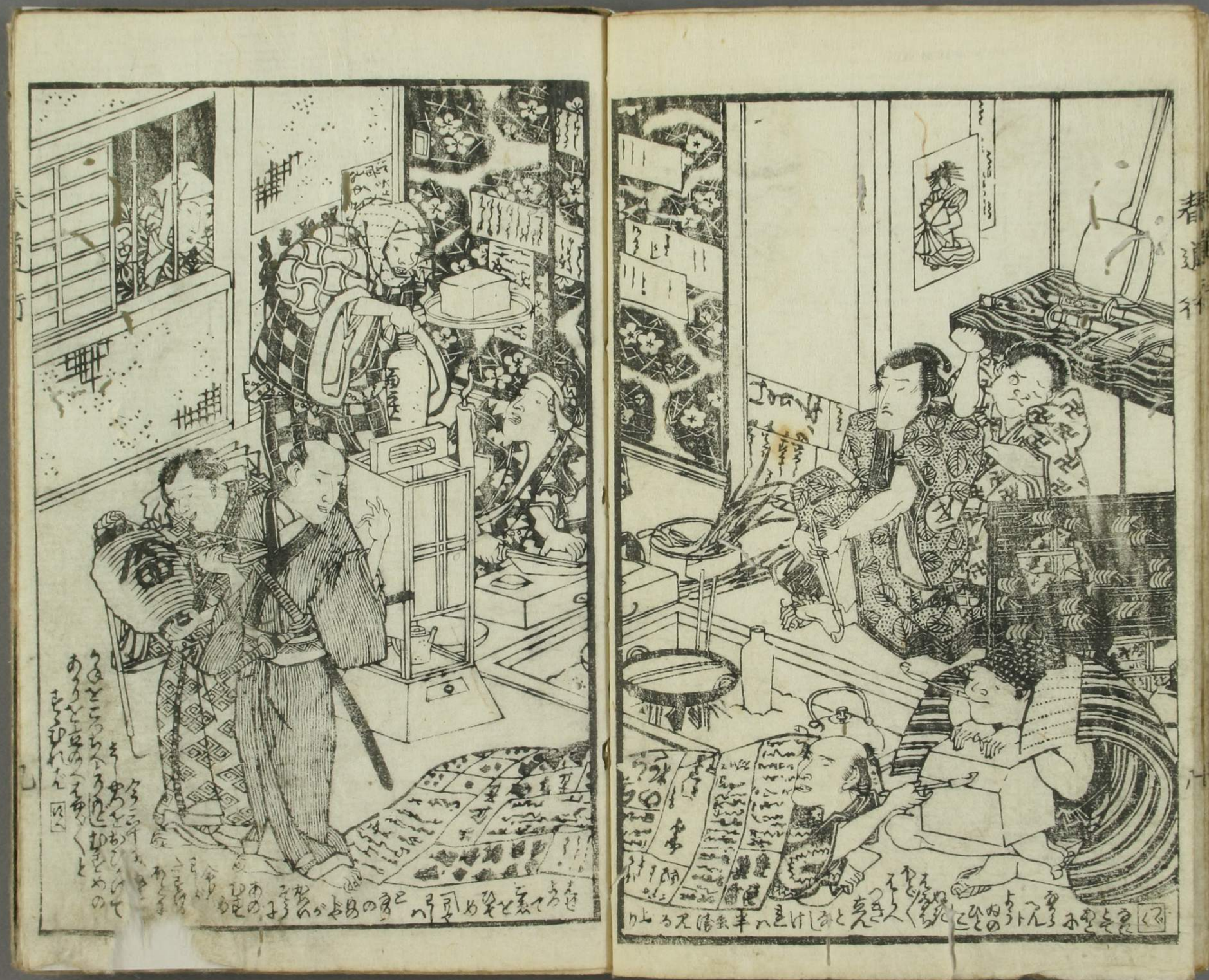
○かまくら松葉ヶ谷の町人
金神長五郎
星の井家の浪人
笹野才次郎
半兵衛妻
一子ちよか
松ちよ

花

梅櫻春の道行 二乃巻

半
ゆう

花



九

つゞくつゞく

べゑ判かい

京山作
國貞画
未ノ春

後編

岩戸板

春道行

山東庵京山作
五渡亭國貞画

梅櫻春之道

行後編一帙

京山作

国貞画

嘉永新板

松

ら
よ

べす

小あ

「もしに目がくらむ」

五べゑ

松
よち

小いま

丹

小ふな

金神

ゴボウ

五
侠
よち

よち
の

丹
さの

ち

▼源五ゑもんたちまちふのとのちぎりをふかくそなへ
みなり舟にてをむこふさそふいろりとのおもとよりあやで
これをもひろりめでたしくく

作者口上 東西くたくらんどごうくとあなうの口上
まつりのそおさきぬ方ゆきぐんよりもいく初まちろ中ぎ
しく新そんかりのそろひさるぶん板えどそこめ元ののの
ぎのいろぞろうありぐさい仕合ふまねまもとぞぐて
ひとを京ゑ京待ゑ世吉ゑいのりくスくいのんざく
ぎまろうあくかんりんのつのでふぎうぞよんで下さいまし
ぎくよ丸 一包まる丸五十中ぎまんのまろうあ見えをよくしたふろうきん人
のらひてまんんとまやふまろゆめん 白がんこをまろうあ
一包百廿四せんうことけやうゆあるれしろいをどころ白ぎ牡丹と
十あしろんかくもあるんやいる京でんゑ世の白牡丹と
れうぐるアるトい 士三屋あるひこ 水月翁粉一包まる丸二下寸一
いろをロしいろかぐあれぜうの四方ゆでも一反れひてこうぞ
ちまふふいさしあうろのるるうさしふうけ金ろう
くもろ上 極上表白いいうあ ろの一包六十四せん
ろのつけて白ろくまるうちう
ろうあろんん びいや番一包五十六せんろふろくん
ちげぬあろののでんどもがこあるさしー上下い
小児出ちく むびかくゑ丸一包百廿二せんん本色五十六せんこれと
用ひてむしのうぐろうゆなりてゆとまろぐしーよろきい小児ろあ
もちひてさろやふあくゆ紙のぐく
京山てんら 水月翁作 古ていに近ていこのこふあ
上ひの一字まろくつ 金六巻 京山著 上古中古近古とひちち
▲蚊帳考 其代の蚊帳ゑとうるぐくふ図とのせて考ぐろうろ
たぐろまるのぐふとゆのそうぐまろ 蚊の風ゑ抜のゑ格あゆう

京伝遺稿
京山補訂
貫堂集三編
嵩秋い出版仕ひ

▼えゆひのちぐゆまで
くしーく
考さる
かるいとの
ゑ

山東庵京山作
五渡亭國貞画

清かれの
妙薬 美艶仙女香 一包 四十八銅

此清ろそろうハ寛保十一年二十一番の船ま伊勢九とゆる清朝人ぜ
偶屋の船九ゆ中の遊江屋の格女蜀ぜふ接ゆる新の墨ち寿方ろう伝く
ふ清朝今の中く宮邦の邦人学ホ中ぜ用く接をかるるとそ
なあるくるゆなりてゆ紙のぐ
そのあるゆまこうくそハのうまも初東の地ぜ
ろう接の寿新ろ色バ世ろの新の墨と一列よろ看ゆろうろを

功能

▲ろよ用くいろを白ひきゆをこるろ中ぜ▲たくけをぞろ色ば▲でゆ用ゆくあとゆえゆ海せ
▲いろろゆよ用くあぜんとい色ゆ海せ▲中きびうゆできくゆこゆ▲ちでゆをうろんんろう
中ゆ色ろて用れんバ年ろそも新ホ赤ハのよろゆ色▲期ろ用一切のでゆ見ゆ▲ひぐたぜるゆろうれ
あゆそもゆ級のまれ紙ゆは▲かをそうけぬきらぶれば▲坂のを冷ゆ紙ゆは▲接ゆれ枕ゆれば

調合賣弘所 江戸 坂本氏

取沢